

(様式3)

令和4年度 指定管理業務の評価表

1 施設概要

施設名	中央児童センター	所在地	伊勢市八日市場町13-1 伊勢市福祉健康センター3階
指定管理者名	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	指定期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
設置目的	市民の福祉、健康、世代交流・地域交流等の活動の拠点施設として、社会福祉活動の輪を広げるため		
業務内容	・児童に遊びを与え、その集団的及び個別的指導を行うこと ・運動を主とした遊びを通じて、運動に親しむ習慣の形成、仕方、技能の習得等の指導を行うこと ・子ども会、親子会等地域組織活動の育成助長を行うこと ・その他児童の健全育成に必要な事業を行うこと		
施設概要	本棟 昭和63年3月完成(開館は昭和63年4月) 敷地面積6,015㎡(駐車場、緑地等含む)、建築面積(延床面積)4617.01㎡(うち本棟4407.58㎡) 本棟 鉄骨鉄筋コンクリート造4階建て 本棟 3階(940.63㎡) 遊戯室、工作室、事務室、集会室、図書コーナー、会議室、資材室 等		
職員体制	センター長 1名(兼務) 児童の遊びを指導する者 4名		
施設所管課名	子育て応援課		

2 収支状況

		(A)	(B)	(C)	(単位:円)	
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	比較(C-B)	
事業 収支	収入	指定管理料	9,921,000	10,074,000	10,074,000	0
		利用料金	56,500	78,500	87,500	9,000
		その他	499,914	300,000	300,000	0
		計(a)	10,477,414	10,452,500	10,461,500	9,000
	支出	人件費	6,495,410	6,474,116	6,870,423	396,307
		管理運営費	1,365,958	1,108,422	1,691,554	583,132
		その他	0	174,240	335,995	161,755
		計(b)	7,861,368	7,756,778	8,897,972	1,141,194
	収支差引額(a)-(b)		2,616,046	2,695,722	1,563,528	△ 1,132,194

最新年度(C)と前年度(B)に収支の増減があったものについて記載	支出:コロナウイルス感染拡大防止により中止となっていた事業の再開に伴う人件費・管理運営費の増
----------------------------------	--

3 評価（別表様式4に基づく総合評価）

指定管理者	市
<p>・昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症は拡大されていたものの臨時休館はなく、コロナ禍において人の集まる場所は避けるように家庭で指導されていた小学生が遊びに来始めたり、友達と約束をして放課後や休日に遊びに来たりすることが増え、利用者数は昨年度より3,436人増加した。</p> <p>・休日になると毎週の様子に一人で来館して一日を過ごす小学生にとっては、貴重な居場所となっていた。</p> <p>・年度の後半にはコロナ禍において見合わせていた行事を少しずつ開催することができた。レスパイトケアを目的とした「自力整体」では、人との距離を一定に保ち、飲食を伴う「クッキー作り」など行事は、持ち帰りを行うことで利用者が安心して行事に参加することができた。</p> <p>・普段の遊びや行事においては、伝承遊びを基盤として、常に利用者のニーズに合わせて遊びを考えた。その都度遊びの内容や遊具を更新したことで、より一層充実した遊びを利用者に提供することができた。</p> <p>・利用者の安全を第一に考え、遊戯室での遊び方や遊具を使用する際のルールを再度見直したことで、異年齢が利用しても安全な遊び場を提供することができた。</p> <p>・子どもボランティア「プチトマト」の活動は清掃活動、高齢者との交流会、コーヒーの店でのお手伝いなどを行い子ども達のボランティアへの意識を高めた。</p> <p>・利用者のニーズに沿った新規事業もいくつか開催できた。「皇学館大学生による宿題タイム」と「夏休み宿題書道教室」は、ボランティアによって開催され、参加者だけでなく保護者にも目に留まる需要の高い行事となった。「オセロ大会」は、小・中学生それぞれのグループに分けて試合形式で行い、真剣な勝負が繰り広げられた充実した大会となった。</p>	<p>施設の管理については適正に行われていた。</p> <p>運営については、新型コロナウイルス感染症の規制もゆるやかになり、感染対策に取り組みながら、指定管理者においてできることを模索し、利用者や保護者から好評を得ていること、さまざまな行事に取り組んだことは評価できる。</p> <p>また、他施設、他団体と連携し、地域との交流を積極的に実施していることも共生社会の実現に大きく貢献できるため、引き続き事業の実施を期待する。</p> <p>今後も様々な取り組みを継続していただき、保護者アンケート等により質の高いサービスが提供できるようお願いしたい。</p>

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

施設名

中央児童センター

評価項目		評価			
		指定管理者		市	
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
施設設置目的の達成	①施設の目的や基本方針の理解	A	施設の目的や基本方針の理解はできている。	A	施設の目的や基本方針を定例的にとめなおすなど、日々の業務にも理解の程が見受けられた。
	②施設設置目的の達成度	A	施設の設置目的である「児童健全育成」を念頭に置き、運営を行った。	A	施設の利用状況、管理状況から施設の設置目的は達成できたと思われる。
	③利用者数	A	昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症は拡大されていたものの臨時休館はなく、利用者数は昨年度に比べると3,436人増となった。	A	新型コロナウイルス感染症による規制もゆるやかになり、徐々に活動ができるようになってきた。
	④運営状況	A	新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館日はなく、伊勢市児童館条例に基づき開館運営を行った。	A	法令等に定められている時間どおり運営された。
	⑤職員の配置状況・勤務実績	A	職員の業務分担および行事内容などを明確に設定し、適正な職務を遂行した。	A	現場責任者・業務担当者の届出があり、勤務体制は明確になっていた。
	⑥意思疎通	A	突発的な協議事項については、随時子育て応援課に直接電話で行った。また月報および掲示物を毎月提出して連絡調整を行った。	A	仕様書に基づき毎月の報告がなされた。また、突発的な協議事項については逐一連絡を取り、適正に行った。
	⑦各種管理記録等の整備・保管	A	毎月行事計画、修繕、廃棄、点検、事故などの記録は適切に行い、整備・保管した。	A	各種の記録については、適正に整備・保管がなされている。
	⑧地域の振興	A	子どもボランティア活動において、健幸倶楽部などとの交流、近隣の神社での清掃活動、コーヒーの店での接客の体験を行った。また皇學館大学生、民生委員、地域のボランティア団体の方々と連携して数々の行事を行った。	A	地域や地域住民との交流・連携に関する取り組みを適切に実施し、地域の振興が図れていた。
	⑨使用許可等	—	—	—	—
	⑩利用料金等の徴収状況	—	—	—	—
	⑪個人情報	A	コロナ禍において、来館者には、昨年に引き続き、初回のみ住所・氏名・生年月日などを記入してもらうこととし、情報が漏洩しない様、より一層管理に気を付け書類は鍵がかかる場所に保管した。	A	個人情報の取扱いは適正に行われていた。
	⑫法令遵守	A	各種法令を理解し、遵守した。	A	法令違反は見受けられなかった。

指定管理業務の項目別評価表

施設名

中央児童センター

評価項目		評価			
		指定管理者		市	
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
サービスの質の向上	①施設利用状況及び利用者数増加への取り組み	A	コロナ禍において、備品の消毒や換気などの感染対策を徹底するなど、利用者が安心して施設を利用できる方法を検討し取り組んだ。行事においては、人数制限や回数を分けるなどの対策を講じた。	A	イベント内容のみでなく、想定される利用対象者に合わせた開催スケジュールを構築し、利用者数の増加に努めた。
	②利用者の平等な利用	A	利用者への対応については、職員間で差が出ないよう細かく基本ルールを決めている。また、臨機応変な対応についても、その後必ず報告し合い平等なサービスを心がけた。	A	サービス水準については、常に利用者目線に立ち、さまざまな企画を上げ、実施した。
	③適切な情報提供	A	情報提供については、来館者へ直接声を掛けたり、「広報いせ」・社協HPへの掲載、児童センターだよりの配布、マ・メール配信、児童センター内でのポスター掲示で周知を図り、できる限り利用者が情報を得るように努めた。	A	掲示物やチラシなどの作成の際、見易さ・分かりやすさも視点に入れ、効果的な情報提供をしている。
	④非常時・緊急時の対応	A	緊急時のマニュアルが整備され、従業員訓練の実施や事故発生時・緊急時の対応は適切か。	A	児童福祉施設の設備及び運営に関する基準に規定のある「月1回の非常時の訓練」も、毎月テーマを決めて、適切に行われていた。
	⑤苦情解決体制及び対応	A	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたか。また、事故、苦情に対する対応は適切であったか。	A	利用者からの意見・苦情については、できる限り迅速かつ適切に対応した。事故等については、予防策や安全確保などに常に気を配って対処している。
	⑥自主事業	A	利用者ニーズに即した自主事業が行なわれていたか。	A	毎年行われる満足度調査に基づいて、できる限り利用者のニーズに沿った行事を計画し実施できた。コロナ禍においても感染予防に努めながら少しずつ行事を再開し、活動の自粛はあったが、利用者の満足を得るようできる限りの活動を行った。
	⑦事業の評価	A	事業実施後に確認・見直しが行なわれ、次年度へつなげる取り組みがなされていたか。	A	事業実施後には必ず振り返りを行い、改善点を見つけ出し確認することで、次の行事につなげた。
施設・設備等の維持管理	①建物・設備の保守点検	A	年1回、業者による遊具点検、月1回職員による点検を実施し、遊具の安全管理を行っている。	A	定期的な点検、確認が行われており、記録もなされている。
	②備品等の管理	A	職員が備品や遊具の点検を行い、備品台帳で管理している。また壊れた玩具はおもちゃの病院(ボランティア)に連絡し直してもらったり、年1回の業者による遊具保守点検を実施している。	A	破損や紛失がなく、適正に管理されていた。
	③修繕業務	A	点検によって異常が認められた場合は、速やかに修繕・交換・整備・調整等の適切な処置を講じ、その内容を記録されていたか。	A	異常があった場合は、速やかに職員による処置を行っている。また職員の修理では無理な場合、使用禁止の貼り紙や口頭での注意をし、業者に修繕依頼をし内容を記録している。
	④清掃業務	A	月～金曜日、祝日は清掃会社に依頼、土日は職員が清掃を行い清潔を保っている。細かい玩具などの清掃や消毒作業は、職員が毎日行った。	A	コロナ禍において清掃・消毒作業が常態化しているが、毎日実施し、利用者からの苦情もなかった。
	⑤防犯体制	A	鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切だったか。	A	鍵は決められた場所に保管し、閉館後は事務所に返却している。戸締りは、職員が2重に確認し、閉め忘れがないよう心掛けた。